

平成30年度山形県公私立高等学校協議会の概要

1 日時

平成30年11月26日（月） 14:00～15:00

2 場所

山形県庁 701会議室

3 出席者

委員8名

小山清人、佐藤俊一、九里廣志、田宮邦彦、大山由起子、花屋道子、白旗希実子、堀田理恵 ※敬称略

4 報告

(1) 平成30年度公私立高等学校の入学状況について

- ① 平成30年度公立高等学校の入学状況、私立高等学校の入学状況について説明

5 協議

(1) 公私立高等学校の収容定員について

- ① 県立高校再編整備基本計画について説明（事務局）
- ② 私立高等学校の収容定員の考え方について発言（私学代表委員）

(2) 若者の県内定着に向けた取組みについて

- ① 議題提案の趣旨について説明（事務局）
- ② 県立高校の取組事例について説明（事務局）

《意見の概要》

- 高校で、地元の優良企業等を訪問する取組みを行ったところ、生徒から、①山形に対する無知、偏見を自覚した、②山形からダイレクトに世界とつながる企業があることに驚いた、③山形の良さを再認識した等の感想があった。多くの生徒が県外の大学に進学しており、この流れをすぐに止めることはできない状況ではあるが、地元のことをしっかり理解して、県外・海外に出て行ってほしい。
- 最近の子供達の内向き志向が気になっている。地域の将来を考えると、起業家のような、自分で何かを解決し、自分から行動を起こせる人材が必要であり、一度地域を離れて修行して戻ってきてほしいという思いもある。
- いろんな学校で、地元を理解させる取組みは行っているが、進路先としては、県内の選択肢は限られており、結果的に県外に進学せざるを得ない状況となっている。受け皿をどうやって増やすかが課題。
- 子供が県外の大学に進学した時点で山形県には戻らないと覚悟しているという親の話聞く。県内にも、素晴らしい企業がたくさんあり、みんなやる気をもって活躍していることを親も子も知る必要がある。
- 学生を惹きつけるような魅力ある大学づくり、若者と地域の方々との関係構築、若者の地元企業への認識不足の3つが課題。それらに対応すべく、大学としては、世界各国への留学プログラム、庄内地域でのプロジェクト型学習、長期学外インターンシップ等の取組みを進めている。
- 大学に入ってから流出していないが、入る時点で流出しているという印象が大きい。県内に選択肢がないから残れない、学びたいのであれば必ず県外に出るしかないというところについて、大学としては、若者に選択肢を増やせるよう対策をとってきたい。